



大分県立竹田高等学校  
関東同窓会  
会報

第18号

発行者・会長 長吉 泉  
編集者・委員長 神田 清  
発行所・関東同窓会事務局  
〒100-0014 東京都千代田区  
永田町2-4-11フレンドビル7F  
電話 03(5251)2730  
FAX 03(5251)2750

印刷・佐伯印刷機

### 総会特集

#### 平成十年度

## 関東同窓会総会開催

### 当番幹事の創意が溢れた

### 第十二回総会・懇親会



平成10年7月11日(出新宿のセンチュリーハイアットホテル・

桃山の間に158名の会員が集い、今年の総会・懇親会が大に開催された。

●当日は大勢の会員が早朝から会場に駆けつけ、定刻より10分早く11時50分に会場がオープンされた。当番幹事の児玉幹生氏、前田陽子氏の司会で、当番幹事長の佐藤充子氏による開会宣言に続いて、工藤幸男氏他7名の物故者の方々へ黙禱を捧げ総会

が開催された。

初めに長吉会長は、「昨年の母校100周年記念行事の成功、母校の発展を喜ばしく思います。本同窓会は、県下でもよく組織された会との評価を受けています。本会が永く続くことを願っています。本年から総会と懇親会を一本化して運営します。会員同士の懇親を一層深めて下さい」と挨拶された。続いて、西幹事長より前年度会務報告が行われた。

今年の特徴として、出来るだけ多くの時間を久しぶりに一堂に会する会員各位の懇親に取れる様にとの役員、幹事の配慮がなされ、詳細は配布資料によるとの説明で、会務報告がされた。来賓として、久山竹田高校校

長から母校への支援と100周年記念行事に対する御礼が述べられ、「今年の竹田高校は、全県模試で5番以内に2名も入るなど学業が充実し、更にスポーツ、クラブ活動も活発で、他校からも羨望の学校になっています」の挨拶と報告があった。田北同窓会長からも100周年記念行事の成功に対する御礼が述べられ「5000万円の寄付の目標も達成され、一部は、若手12名をオーストラリアへ研修に出す等、将来の発展へ向けて有意義な活用を考えている。関東同窓会の益々の発展をお祈り致します」との挨拶があった。

続いて、谷脇福穂さん、原田憲司さん、渡辺大分県事務所長、佐野大分県人社編集長など各来賓からお祝いの言葉を頂戴した。

●12時25分、高宮相談役の「関東同窓会の集いは明るい希望の星です。懇親をより一層深めて下さい。地域の発展を祈念して乾杯」により第二部懇親会の幕が開いた。今年の催し物は、湯島天神ゆ

### プログラム

(総会の部)

11:50~12:20

1. 開会のことば
2. 会長挨拶
3. 会務報告
4. 監査報告
5. 来賓挨拶

かりの助六陣太鼓保存会による和太鼓が披露された。

今年の特徴としては当番幹事の呼び声で各地からの参加が多く見られたことであるが、名古屋から駆けつけた山本英次氏は、初参加ながら自作自演の「故郷豊後竹田望郷ソング」MICKA SANOと並んで歩いた岡の城、二人で走った都野路トクトク...を披露され、全員の喝采をあげた。次回は得意のバンジョー持参での参加を約束された。会もたけなわとなれば、例年のごとく後藤浩一氏、津下渥子氏のリードによる校歌、荒城の月熱唱で会は益々盛り上がった。安東和彦氏の昭和23年まで続いた高女、ガールズスクールの思い出に続いて、最後に渡辺正治氏による「本同窓会はかつての中学、高女、竹高と広く郷土の文化を担う竹田の集いであり益々の発展を願う」と締めくくりの言葉でお開きとなった。

最後に当番幹事・桑島氏より「同窓会へ行く竹田があるよ」との会員の励ましで運営ができたとの報告と併せて次年度33、43年度卒への幹事の引継ぎが報告された。



母校より久山校長先生、田北同窓会長他多くのご来賓をお迎えしての第12回関東同窓会総会



フォトで綴る!!  
第12回 総会懇親会風景



高宮相談役の音頭で「乾杯」



ご来賓久山校長先生の挨拶



名古屋支部・山本氏による  
(竹田望郷ソング他)ご披露



当番幹事・児玉・前田両氏による名司会進行

プログラム

- (懇親会の部)  
12:20~14:30
1. 乾杯
  2. 歓談
  3. アトラクション
  4. 当番幹事引継ぎ
  5. 校歌斉唱
  6. 閉会のことば



当番幹事による「心温かい」受付

▶近隣高校同窓会長をお招きして  
・泉立大分工業高校(谷脇会長)  
・泉立三重高校(有田会長)他



例年にも増して盛り上がった「校歌と荒城の月の熱唱」



市馬師匠を囲んで一次期幹事の皆さん「来年も宜敷く!」



稲葉会の皆様による女子校歌の斉唱



# 平成十年度総会報告と 平成九年度会務・会計報告



幹事長 西 誠  
(昭和30年卒)

## (一) 平成十年度 総会報告

### 総会報告

去る七月十一日(土)、新宿小田急センチュリーハイヤットホテルにおいて、総務一五八名出席の下、第二二回関東同窓会総会、懇親会が開催された。

今年の当番幹事さんは、昭和三十二年と四十二年卒業の皆さんが担当し、従前とやゝ趣向を変えて総会・懇親会を同一部屋として、総会議事を略式にした。ご来賓には、母校校長 久山征三氏、本部同窓会長 田北和義氏、大分県東京事務所長、大分県人社社長の他、新たに、仲間の県立高校関東同窓会より二校(大分工業高、三重高)の会長が参加され交流の輪が広がった。

定刻、開会時は、空席が目立ったが、懇親会に移る頃には満席となった。

会場を流れるピアノ演奏は、前年に続いて三二年卒の生野良友氏が担当した。

アトラクションは助六太鼓で

賑わった。祝い太鼓、祭り太鼓の他、最後は左右太鼓の乱れ打ちで盛り上がった。

祝い太鼓ではリズムミカルな「イヨーツ」「イヨーツ」の合の手が心地よかったが、以前、都心部下町に住む友人から、「手締め」のときの掛け声(イヨーツ)は、「(祝おう)がなまった意味合いもあるんだよ」という話を聞いていたので、それを実感した。

毎回、同窓の落語家 柳亭市馬師匠には、先輩先輩と参加会員を持ち上げて会場の笑いを誘っていたのだが、昭和四十四年卒以降の若手同窓会員の発掘、参加が当面の課題となっている。

総会当日、会務会計報告の朗読を省略させていただいた関係で、以下本紙面をお借りして掲載させていただくと共に、当日出席できなかった会員の皆様への報告とさせていただきます。

## (二) 平成九年度 会務・会計報告

### 会務・会計報告

平成九年度(平成九年四月  
平成十年三月)

### (1) 会務報告

●平成九年四月十一日 幹事会

●学士会館 出席二五名  
役員改選年度にあたり新役員候補の決定  
●第十一回総会、懇親会の準備状況報告

●平成九年六月六日 役員会  
学士会館 出席六名

●総会、懇親会における役割分担について  
●総会、懇親会運営内容再確認  
●総会、懇親会経費予算の件

●平成九年六月二十八日  
第十一回総会、懇親会  
於ホテルセンチュリーハイヤット 出席一九〇名

(総会の部)  
●開会、会長挨拶、会務・会計報告、監査報告、来賓挨拶、閉会  
(懇親会の部)  
●当番幹事、昭和三十一年卒(第八期)、昭和四十一年卒(第十八期)担当

●開会、来賓祝辞、乾杯、郷土芸能「神楽舞」の自演、男性軍によるカンカン踊り、生野良友氏によるピアノ演奏、郷土の歌斉唱、郷土特産品コーナー設置、出席者全員土産

●平成九年八月二十三日  
●総会、懇親会の反省会  
(役員、各委員会委員、学年幹事、当番幹事) 於上野蓬萊閣 出席二九名

●第十一回総会、懇親会の総括  
●総会収支報告、運営上の反省事項等

●母校百周年記念式典情報  
●平成九年九月二十四日  
●母校百周年記念式典、長吉会長他、役員、学年幹事有志が自費参加

●平成九年十月二日 役員会  
●秋の幹事会日時、議題について

●開会、来賓祝辞、乾杯、郷土芸能「神楽舞」の自演、男性軍によるカンカン踊り、生野良友氏によるピアノ演奏、郷土の歌斉唱、郷土特産品コーナー設置、出席者全員土産

●平成九年十一月二十日幹事会  
●第十一回総会、懇親会結果報告

●各委員長提案、今後の課題及び方針等  
●母校百周年記念式典参加報告  
●弔慰金支出に関する内規承認

●平成十年二月六日 役員会  
●春の幹事会日時、議題について

●母校百周年記念式典参加報告  
●弔慰金支出に関する内規承認

(2) 会計報告(表参照)  
●会計報告は平成10年6月17日に吉田忠監事が監査を実施し、適正且つ正確である旨の報告があり、総会において承認可決されました。

## 会計報告

### 収支計算報告書

(平9.4.1から平10.3.31まで)

1. 収入		
① 維持費	2,225,610円	
② 雑収入	1,429,000円	
③ 広告費	60,000円	
④ 総会祝儀	10,000円	
⑤ 受取利息	1,133円	
前期繰越計	3,725,743円	
合計	1,540,497円	
2. 支出		
① 総会議費	2,198,451円	
② 会務通信費	348,068円	
③ 事務報費	166,265円	
④ 会名簿費	705,520円	
⑤ 本校百周年祝金	395,596円	
⑥ 本校百周年祝金	100,000円	
⑦ 慶弔計	25,750円	
次期繰越	3,939,650円	
合計	1,326,590円	
3. 次期繰越内訳		
① 現金	30,673円	
② 預金	1,295,917円	

上記の通り報告します。

平成10年5月21日 幹事長 西 誠

### 監査報告書

監査の結果、この収支計算報告書は、適正かつ正確であることを認めます。

平成10年6月17日 監事 吉田 忠 監事 吉得 丸 大 典

## 委員会報告

### 企画委員会

企画副委員長 桑島 輝茂  
(昭42年卒)

第12回総会・懇親会を去る平成10年7月18日新宿センチュリーハイアットにて158名の参加を頂き無事終了できました。

今回は平成11年7月17日(出)、昭和33年・43年卒業の方々担当幹事をお願いし、場所は同じ新宿センチュリーハイアットで予定しております。会員各位今年以上のご参加をお願いいたします。

さて、今年の懇親会は昨年を引き続き生野良友さん(昭32年卒)のピアノ演奏に始まり、助六太鼓保存会の皆さんの力強い和太鼓の響きで会場は最高潮になり、今回も柳亭市場師匠(昭55年卒)の飛び入りあり、また名古屋から新会員になった山本英治さん(昭42年卒)の自作の歌の披露等々大いに盛り上がり、名曲「荒城の月」校歌を全員で合唱し楽しい時間はあっという間に閉宴となりました。

当幹事の皆さん大変ご苦労様でした。来年の幹事さんよろしくお願ひします。

### 総務委員会

総務委員長 渡辺 真一  
(昭23年卒)

#### 維持会費(負担)のお願い

関東同窓会は、維持会費の皆様の日頃からの、深いご理解とご協力に支えられて、安定的なあゆみが続いております。

ご承知のとおり、関東同窓会の運営の経費は維持会費のご負担により賄われております。本年分の維持会費のご負担につきましては、すでに七月末を一応の期限としてお願いしておりますが、現在、維持会費のうち若干の方が未済となっております。未済となっておられる方々には、何かと出費ご多端の折かとも思いますが、ご負担についてのご協力方よろしくお願ひ申し上げます。

### 組織委員会

組織副委員長 後藤 猛士  
(昭41年卒)

#### 組織委員会の活動方針

12回目の集いを終えた竹田高校関東同窓会ですが、学年幹事を中心とする組織委員会も変革期にあたっております。同窓会発足当初は40才代よりの参加でしたが、若い世代の名簿登録・

参加が進まず危機感をつのらせております。昨年来、川合委員長を中心に協議を重ね、世代を分けた学年幹事の集まる機会をつくり打開したいと計画しております。昨年母校で発刊された同窓会名簿には約250名程度の関東同窓会未登録の関東在住者がいらっしやいます。一年に一度大分弁の飛び交う故郷の会、母校の会を守り続けるためにも世代ごとの学年幹事会を。本年は昭和40年卒業世代の組織化が最重要課題です。皆様のご協力お願い致します。

### 広報委員会

広報委員長 神田 清  
(昭26年卒)

臥牛を会員相互の自由な意見交換・触れ合いの場として大きく育てよう!!

幹事会の席上で、特に名簿更新に際し、会員の計報、変更通知を密に頂きたい旨再三要請がありましたので、この機会に改めて会員各位へお願ひする次第です。

### 名簿委員会

名簿委員長 山口 雄二  
(昭29年卒)

活動の原点は、いかにして会員、それも若い会員を増やすかです。幸いにして組織委員会の努力で新規に五百余名の会員のリストが出来ました。これを基礎として新規会員の住所、勤務先、電話番号などを確認し、また可能ならば各委員や学年幹事の選出を行って来年の春に出版される会員名簿に編入、登録する事務を完遂することが、名簿委員の当面の大仕事であろうと考えています。これにより竹田高校関東同窓会は二千人以上の会員を擁することになります。役員、各種委員会委員及び各学年幹事の皆様の絶大なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

#### ●関東同窓会会員名簿を

##### 目下改訂中

- ※お願ひ!!
- ①各学年幹事の詳細な再点検
  - ②記載漏れの新規掲載
- 名簿中の誤字・脱字等々お気付きの方は名簿委員長又は事務局(渡辺五月)までご連絡下さい。
- 関東同窓会事務局  
TEL〇三(五二五)二七三〇  
FAX〇三(五二五)二七五〇

## 会員特別寄稿

### 随筆

#### 傘寿を迎えて追憶漫談

相談役 渡辺 正治  
(昭10年卒)

1965年1月末、真冬のアメリカからイギリスのBrentfordにあるPyrene Co.を訪問した。英国のParker技術の代表会社であるが、自己開発技術に関して米国Hooker社との間で見解の相違でもめており、我々との話も内容が複雑で骨の折れる数日であった。一応話し合いがつき食事を共にして歓談の折、Mr. J. A. Freemanから君の英語はアメリカのBarbarian Englishだと言われ、一つ一つ言葉と発音を訂正されたものである。

2月1日、パリ郊外のClichy市のSociete Continental Parker社、4〜9日ドイツFrankfurt市のMetallgesellschaftとDegussa社とを訪問した。MG社はドイツのParker技術社であり、DG社は塩浴窒化法による熱処理技術社である。MG社のWinfried Menzer、DG社のDr. Johannes Muller(タフトライド博士)の両氏とも長年の友人となった。三浦(Muller)氏とManj河畔の食堂で昼食を共にする。\*





# 会員特別寄稿

## 幕末の岡城に生まれた異色の篤学者― 中川久知

(第一回)

安東 和彦(昭25年卒)

中川久知(ひさと)は幕末

の安政六年(一八五九)豊後國岡藩主中川久昭の次子として岡城に生まれ、大正十年(一九二一)熊本で亡くなった。久知はその六十二年の生涯を博物学や昆虫学の研究に捧げ、特にその後半生では農商務省(農林水産省の前身)農事試験場昆虫部の技師として、東京や熊本においてイネの害虫の生態の研究や防除技術の普及に精魂を傾け、大きな業績を残した。広く博物学に造詣が深く、日本の昆虫学が未発達時代に先駆的な研究活動をした稀に見る篤学者であった。晩年には九州博物学会の終身会長に推薦され、また明治三十六年には大分縣選出の衆議院議員になったこともある一風変わった経歴の持主である。



中川久知(大正4年撮)

借りて是非皆さんに久知のことを御紹介したい。

久知は生まれつき頭脳明晰で向学心が強かったらしく、直入郡志によれば、六才の時藩校の由学館に入り漢籍を数年学んだ後、十二才で上京して丹羽家塾や逢坂学舎で英語と数学を学んだ。更に東京英語学校、開成学校を経て明治十年に大学南校(東京大学理学部の前身)に入學したが、二年後に家事都合で退學している。其の後は麻布農学校教師、内務省地理局勤務を経て、愛媛、福岡、熊本各縣の中学校、師範学校教諭、第五高等学校(熊本大学の前身)教授を歴任、博物学を研究した。そして明治三十二年、農商務省試験場昆虫部に転じ、農業害虫の研究に従事するようになる。しかし同三十六年大分縣選出の衆議院議員となつて試験場を退職するが、同年末に衆議院が解散になったため、翌三十七年再び農事試験場に復帰、当時熊本にあった九州支場勤務となり、本格的にイネの害虫に取り組むことになった。丁度広瀬武夫が勇名を馳せた日露戦争の頃である。明治四十四年には勲五等瑞宝章を授与

された。大正二年退官、その後は熊本医学専門学校解剖学担当の講師をしたり、養蜂業や養鶏業を営んでその傍ら蜜蜂の品種改良や鶏の餌に関する研究をやり、その結果を発表したりしている。鶏の餌の中のビタミンの重要性を解明したのは久知であるという。学究一筋の、しかし起伏の多い生涯だったと思われる。久知が昆虫の研究に携わったのは農事試験場時代の十五年位の比較的短い期間だが、その間に久知は驚くべき多数の研究論文を発表している。イネの害虫についての優れた研究が沢山あるが、中でも久知の名を後世に残すことになったのは、明治四十年に発表した「葉鞘変色茎の切取り」というイネのズイムシ(ニカメイチュウ)の新しい駆除方法の提唱である。「葉鞘変色茎」という用語も久知の命名である。この方法は早期発見によって禍根を未然に排除くもので、省力的で効果の上がる、当時としては画期的な駆除法であった。この作業のために「葉鞘変色茎切取鎌」という道具が考案され広く使用された。細長い柄の先に可愛らしい刃のついた、鎌というより「孫の手」のような感じの道具で私も子供の頃見た記憶がある。一体何に使うものだろうと不思議に思ったことを鮮明に憶えている。恐らく年配の方には心当たりがおありだろうと思う。(次号に続く)

「飲み物は何にするか?」と言うので、「Coca Cola」と言う。「あんな物は飲み物ではない」と言つてワインを注文した。「君の会社の堀氏など酒を一度にHalf Gallonも飲むそうではないか」と言う。ワインが来たので一口すると凄くアルコール濃度である。慌ててコップの水を啜ると、「そうだ、このワインの飲み方はそれで良い」と笑つて居る。

仕事を終えゲート博物館を見て、憧れの古都Heidelbergを訪ねて一日を終わらせた。Intercontinental Hotelの部屋で最後の夢を結ぼうとしたが、ゲートの「若きヴェルテルの悩み」などを思い出して仲々眠れない。時計を見ると11時半を過ぎて居る。明日は帰国の飛行便の時間が早いので、一杯飲み地階のバーに降りて行くと、夜中と言うのに満員の客である。やっとカウンターのベンチ席に割り込んでワインを注文した。隣席は殆ど駐留の米兵達である。

ふと気が付くと何か耳慣れた音楽が流れて居る。耳を傾けると何と「荒城の月」ではないか。驚いて後方のピアノ奏者を振り返ると、彼は軽く会釈して高らかに演奏を始めたのである。全くの感激である。ワイングラスを挙げて彼に感謝の挨拶をする。その時右隣の米兵が、「あれは何の曲か?」と聞く。

自分と同郷の音楽家である。「何という曲?」咄嗟に何と返事をしてよいか思いつかない。

「Moon-light Sonata in Japan」と答えると彼もニコリとして杯を挙げた。こんどは左隣の米兵が「君は何処から来たのか?」と聞く。日本から・東京から・羽田からと答えると、「HANEDA?...MANILAではないのか。自分は厚木に居たことがあるし、マニラにも駐在したのだ」と言う。彼も相当酔つたので居るらしく、言葉がもつれ勝ちである。暫くすると又問いつける。「Where did you come from?」こゝちも相当回つて眠くもなつたので、

「From Mars, Just as Martin\*」と答けると、大真面目な顔をして彼曰く、

「From Mars?...Me too. But TOP SECRET!」

この頃は米ソ間で宇宙探検の競争が激しく、月や火星が人気の的であった。

(\* Martin Caidin: "Rockets Beyond The Earth" 1952)

この話は面白がられるので、酒の席などでよく話したらしい。ある時、日本パーカライジング社の故里見会長から、

「その話は仲々面白いが、その時君はピアノリストに幾らチップをあげたの?」

と聞かれてギャフンと參つて終つた。

燃える!!

# クラス会・同期会

## 竹田・東京・大阪

### 同期会情報

高山 英一(昭17年卒)

今からちょうど六十年前旧制竹田中学校に入学した41期生が「竹田茶寮」で同期会を開いた。卒業時に九十七人いた級友も戦死者を含め三十六人が今は亡く、出席者は残り六十一名中二十四人と少なかったが、級友衛藤龍天久住町長が卓話し懇親会は盛大であった。(平成十年四月十三日大分合同新聞より)

時を同じく同年四月、関東同窓会員の41回同期生5人が「東京ゆうほう」とで同期会を開いた。その中の一人、佐藤乾君が大阪桜井から東京池上本門寺裏に一家で転居され永住することになり、関東同窓会入会を記念し、祝杯を上げた。席上話題は大阪・東京・竹田の旧友・旧師まで及び話が弾んだ時の東京・大阪・竹田のクラス会(同期会)のスナップ写真である。

「からす鳴き  
山のみどりや本門寺」

佐藤 乾



▶東京組同期会

▶大阪組同期会

## 30周年祝って同期会 昭和42年・竹田高の卒業生

川合 俊彦(昭42年卒)

一九六七(昭和四十二年)に竹田高校を卒業した第十九回生の卒業三十周年記念同窓会が八月十六日、母校の体育館などで開かれた。

第一部の記念式典は、関東、中部、関西、九州各地からの遠来組をはじめ百十人が出席し、恩師十九人も招いた。吉良利子さんの開会の言葉が始まり、林剛太郎さんの司会で、まず故人となった恩師・級友の冥福を祈って黙禱をささげた。この後、実行委員長の板井良助さんがあいさつ、来賓祝辞があり、母校への記念品として「楽器代」の

目録を贈った。

また、恩師の紹介があり、恩師を代表して倉原隆範先生があいさつ。母校器楽部の友情演奏の後、全員で校歌を斉唱した。黒田豊子さんの閉会の言葉に続いて記念撮影をした。

第二部は会場を竹田市農協協会に移して行われた。記念行事では「ふるりの現況」と題して、竹田周辺を吉良山純子さんが、久住町を木村信義さんがそれぞれ報告した。アトラクションの子供三日月太鼓で盛り上がったところで、後藤真志さんのあいさつで懇親会が始まり、田北和義同窓会長の祝辞の後、出席の恩師最長老、八十五歳の日高伝先生の乾杯の音頭で自由歓談に。同会は五年前に二十五周年を催しているが、三十年ぶりに



卒業30周年記念(1997.8.16 於 母校体育館)

出席した級友も多く、クラスごとのテーブルを回りグラスを重ねるごとに思い出や近況を語り合った。武藤喜好先生や山本英次さん、羽田野修司さんらのバンド演奏も飛び出し大いに盛り上がったところで竹高魂のストーム「戦い勝てり」を熱唱。関東同窓会の桑島輝茂さん、関西の尾下加代子さん、福岡の清水康生さんの発声でパンザイを三唱し、佐々木英二さんの閉会の言葉の後、復活した盆踊りでにぎわう竹田の町へ繰り出した。

## 竹高四十回イン大阪

羽立 圭爾(昭40年卒)

伏線は二年前にあった。それまで同窓会らしきものは一度もなかったが、卒業後三十年を記念に再会してその後の様子を知りたいとの気持ちから故郷竹田に百七十名もの多くの仲間が集った。その時の感動と興奮は期待以上のもので皆の中に残った。今回はその余韻の下に全国から集まり易い大阪に於いて前回出席出来なかった人も来られるようにということ、五十才を記念して「竹高四〇回イン大阪」が開かれた。

一九九七年十一月二十二日、大阪の中心淀屋橋オフィス街の裏通りにあるクラシックな料亭「湖月」に全国から九十名程が集会した。

大阪地区の仲間が幹事役を務

め席順をくじ引きで決めており、男女交互で着席するよう配慮してあった。不思議なもので隣に誰か青春の胸のときめきの中に席に着いた。これが流石に同窓会なのだとの最初の感激であった。やがて写真撮影と進行し一次会はお開きとなったが、ほとんどの仲間が同宿する近隣のホテルでの二次会へ雪崩れ込んだ。中にはもう孫のいる者、未だに独身の者、大学教授、市会議員、社長、タクシードライバー、医者、専業主婦、一介のサラリーマン等々それぞれであったが、一通りの人生を重ねて来た満足感が表情に現れて、出席者皆が「良い顔」をしていたのが次の感動であった。

過去を偲ぶのではなく、今後に繋がる活力創造の場としての同窓会を再び(今度は還暦記念か?)皆元気で開催出来れば幸いである。一方ならぬ幹事の尽力に感謝すると共に、次は是非幹事をやらねばならぬと感じた。



竹高40会 in 大阪(1997.11.22 於 大阪・湖月)



# ふるさと名所紀行

## ～佐藤義美記念館～



稲葉川を見渡す景勝の地



似顔絵



原稿や遺品3000点余りを展示

佐藤 毅士 (昭28年卒)

### 「佐藤義美の作品を見ていく」シリーズが発売中!

裨田幸子先生が地域情報誌「からんころん」に連載したシリーズが、このたび佐藤義美記念館のオープンに合わせ刊行されました。

本書は佐藤義美先生の作品を「雪」や「月」など題材ごとに解説、シリーズ化したものです。佐藤義美の世界をこの機会にふれてみてはいかがでしょうか。

佐藤義美記念館ほか、市内書店で発売中です。  
(1冊380円 セット1,800円)

●問い合わせ 佐藤義美記念館 ☎0974-63-2650



服部公一作曲、小嶋くるみ、ボニージックス歌の「アイスクリーム」の歌や「いぬのおまわりさん」大中原作曲、コールメグ歌など三十を超える作品を世に出しているが借しくも一九六八年、六十三歳で亡くなられた。この記念館の建設に当たったのは佐藤義美さんのまな弟子の童話作家裨田幸子さん(七三歳)で、私費六千万円を投じて二百年がかりで、木造二階建て約二百五十万平方メートルの大正ロマン漂う洋館造りを完成した。

佐藤義美さんは一九〇五年、竹田市に生まれ、旧制竹田中学から早稲田大学に進んだが、在学中から「赤い鳥」などに投稿し、詩人、童謡・童話作家として、早くからその才能を発揮していた。特に戦後「NHKうたのおばさん」や「ABCのこどものおうた」(朝日放送)などラジオ・テレビ放送のために童謡を多く作るようになって、その活躍は一段と注目を浴びるようになった。

佐藤義美記念館は、JR豊後竹田駅前、清流稲葉川をはるかに見渡すことが出来る景勝の地に建てられている。

## 竹田の町づくりの拠点に 佐藤義美記念館オープン 童謡「犬のおまわりさん」他多数を展示

一階のオープンスペースには、自動演奏機能を装備したピアノを設置、義美作品の童謡演奏を聴くことが出来る。又ここではミニコンサートなどのイベントも行われる。

二階の展示室は、義美さんが着用した衣服、生原稿、作品、著書約三千点が並べられている。その他、ビデオ鑑賞装置、童謡をいつでも聴けるようにCDによるリスナーコーナーも設けられている。

同記念館横には別棟の「このおうち」もあり、付設ミニホールとして、こどもたちがピアノをひいたり、歌ったり、絵本を見るなど自由に利用出来る空間も用意されている。

今年四月にオープンしたばかりだが、来館者のリストには九州各県からは勿論だが、遠く札幌をはじめ福島、名古屋、大阪方面からの見学者も見受けられた。関東同窓会の方々も帰省の折にはぜひ一度足を運び、同窓の先輩の事蹟に接しては如何でしょうか。



寛永寺清水堂

■寛永寺清水堂(重文)  
交国電、上野駅下車  
台東区上野公園  
江戸時代1631年(諸堂建記)  
園桁行5間、梁間4間、一重、入母屋造、本瓦葺き

スケッチ、解説は  
高山英一著「建築スケッチ」より

遠く故郷を離れて関東圏に住んでいる同窓の仲間にとって、故郷は遠くに在りて想うもの。郷里の出来事も時折は報らせて戴きたいと強く望む者一人です。故郷ニュース、竹田近郊での出来事等々……是非共報らせて下さい。お願い致します。

## 声



浜口 鈴子(昭26年卒)



竹高40会 in 大阪(1997.11.22 於 大阪・湖月)

96回忌 瀧廉太郎追悼祭

■と き 6月28日(日) 14:00~  
 ■と ころ 瀧廉太郎記念館  
 ■内 容 献花、献詩、献奏  
 「荒城の月(原曲)」  
 (清野勝樹)、合唱ほか

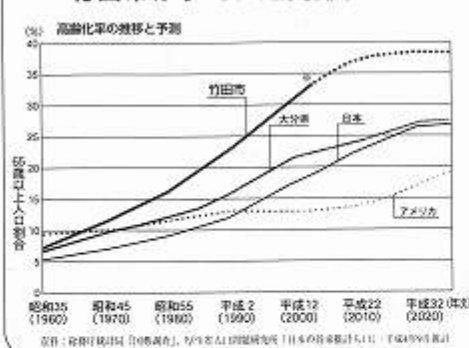


主催/竹田市少年少女合唱団・コ  
 ール竹田メリーズ・コーラス稲葉

96回忌 瀧廉太郎追悼演奏会

■と き 6月28日(日) 15:00~  
 ■と ころ 瀧廉太郎記念館  
 ■内 容 特別出演「和の響・みつのね」(主宰・岩田欣也)  
 岩田欣也(琴)、池上眞吾(三絃・糸)、清野勝樹(尺八・笛)  
 主催/竹田市少年少女合唱団・コール竹田メリーズ・コーラス稲葉

竹田市はすでに超高齢社会!!



ふるさと  
 故郷情報をお届け  
 してみました  
 (竹田市提供「広報たけた」より)

情報  
 たけた  
 Information  
 Now  
 in  
 Taketa

**大分県に進出!!**  
 貴方のスペース  
 「日本パーカライジング株式会社」は、七十年のノウハウを次世紀へ向けて二一世紀型のハイテク表面処理サービスを提供すべく県内安岐町に新工場を建設した。

大分パーカライジング株式会社  
 パーカー加工株式会社

〒873-0221 大分県東国東郡安岐町大字西本字内迫696-1  
 ☎0978(67)3377

市民ギャラリー 水琴館 問い合わせ 水琴館 ☎63-2200

「岡藩古絵図展」  
 5/10(日)~6/10(水)  
 竹田市立図書館所蔵の郷土資料の中から、江戸~明治初期にかけての竹田の岡城下の地理の様子がかがえる絵図など、岡藩古絵図を多数展示しています。またとない機会ですので、ぜひご覧下さい。

「井上秋岳展」  
 6/11(木)~6/28(日)

**訃報**

慎んでお知らせ申し上げます、心からご冥福をお祈り致します。

平成10年4月27日 没  
 工藤 幸男(昭6年卒) 享年84歳

平成10年4月5日 没  
 執印 貴(昭25年卒) 享年66歳



水細る稲葉の川に精霊の光あまたがたゆたい流る  
 汗拭い何度もなんども踊り抜く  
 盆が終れば故郷は秋

詩歌・文芸

帰郷  
 石原田鶴子  
 (昭14年卒)

熊本の空港に着けば故郷は  
 雨降らずして熱風の中  
 野を森を横切りて雲の流れゆく  
 其のはたてには五岳の聳ゆ  
 思い掛けず妹と見し盆踊  
 幼き我も踊りし歌よ

**会員の皆様へ お知らせ!!**

◎竹田会  
 平成10年11月20日(金) 予定  
 PM 6時~  
 中野サンプラザ10F 芙蓉の間

◎第十三回 関東同窓会総会  
 平成11年7月17日(土) 予定  
 受付 AM 11時~  
 センチュリーハイアット

◎御礼!!  
 池田育代様  
 (昭40年卒・竹田市在住)  
 故郷竹田周辺の草花の手製シオリ(総会時配布)を沢山ご寄贈賜り有り難く厚く御礼申し上げます。  
 関東支部会員一同より

「故郷の芳香を偲ばせる  
 草花のシオリ」

あ と が き

「声」の欄への要望として会員の皆様から故郷での出来事(ニュース)を報らせてほしい、との要望がありましたので今回より「Now in Taketa」の欄を設けてみました。今後特に関心のある内容・希望事項等がございましたら御一報下さい。お詫び!!

紙面の都合でクラス会便り他ご投稿の一部が次号に廻り、誠に迷惑をお掛けしております。

※「投稿」をお待ちしています!!

若い世代の皆様への「クラス会情報」や「特別寄稿」等々ご投稿を特に期待しております。



投稿内容

- ①クラス会情報
- ②故郷の便り
- ③海外便り
- ④会員の語らい
- ⑤詩歌・文芸
- ⑥会員の催し
- ⑦会員消息
- ⑧その他

連絡先

〒279-0022  
 千葉県浦安市今川2-10-31  
 神田 清 宛(広報委員長)  
 ☎047-1354-9456